

第178回国際研修（オンライン実施）
「サイバー犯罪－電子証拠が問題となるあらゆる形態の犯罪」

1 日程及び参加者

- 令和4年6月14日（火）から同年7月7日（木）まで
- 海外参加者14か国29名

2 研修概要

本研修では、情報通信技術の普及・発展により高度化・複雑化・国際化するサイバー犯罪はもとより、伝統的な犯罪の敢行においても電子的手段が多用されている現状に鑑み、主要な課題とされる①電子的証拠の収集、保管、分析及び活用、②国際協力の在り方に焦点を当てつつ、各国の知見・取組を共有し、議論を行うことにより、サイバー犯罪を含む電子的証拠の取扱いが問題となる事件の捜査、訴追、公判等の改善につなげるとともに国際協力を促進することを目的としています。

3 研修実施方法

新型コロナウイルスに関する情勢に鑑み、オンライン形式により実施します。

4 客員専門家等

本研修においては、アジ研教官による講義のほか、以下の客員専門家・外部講師による講義を行う予定です。

【客員専門家】

- トーマス・シャラ・ドハティ氏
米国司法省 中央・東・南ヨーロッパ地区 国際サイバーハッキング・知的財産部門 法律顧問
(講義題 [仮]) 「捜査・訴追における電子証拠の効果的な活用等」
- リナ・アクス氏
ユーロジャスト 司法協力官 (シリウスプロジェクトメンバー)
(講義題 [仮]) 「国境を越える電子証拠へのアクセス」

【外部講師】

- 山崎隆之氏
警察庁交通局交通企画課 理事官兼交通規制課付
(講義題 [仮]) 「インターポールにおけるサイバー犯罪対策の取組」
- 渡邊和彦氏

警察庁サイバー警察局サイバー企画課 課長補佐

(講義題 [仮]) 「警察庁におけるサイバー犯罪対策の取組」

○ 原島一郎氏

大阪地方検察庁刑事部 検察官検事

(講義題 [仮]) 「検察庁におけるサイバー犯罪の取組」